



「不屈」
No.587付録
高知版No.432
2023.5.13
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
高知県本部
発行責任者
森岡 幸一
TEL・FAX
088-841-0075

憲法施行76周年県民のつどい

戦争を回避する道すじ

4月29日、「憲法施行76周年県民のつどい」(2023憲法集会実行委員会主催)が開催され、「戦争を回避する道すじ」と題して、前川喜平さんの講演が行われました。

講師紹介で、文科省宗務課長時代の「旧統一教会」名称変更許可問題、文科省事務次官(事務方の

県民の集い



鋭く戦争を回避する道すじを語った前川喜平さん

トップ)時代の加計学園グループの岡山理科大学獣医学部新設計画をめぐる問題の当時者であったことに触れたことから、まずはその真相から講演が始まりました。

そしていよいよ当日の演題である「戦争を回避する道すじ」について講演が行われました。講演では、ロシアがウクライナでしていることは日本が戦争中にやってきたことであり、戦争で犠牲になるのは弱い立場の子どもや市民であること、1928年の不戦

条約は世界で初めて戦争を違法とし(第二次世界大戦は防ぐことはできな

会場の高知城ホール4Fは満員の盛況



憲法施行76周年県民の集い

かったが)その精神は国際連合という形になってさまざまな困難に直面しながらも平和を追求し続けていること、などの歴史が紹介されました。

また、日本は押し付けではなく自主的に戦争の反省の上に立って平和憲法を制定したのであり、平和憲法の改悪を許さず、人権、そして平和的生存権を保障し、最大の人権侵害である戦争が起これない社会を創造し、それを国際社会に広げていく

ことこそ「戦争を回避する道すじ」であることが語られました。

平和憲法改悪を許さない、私たち一人ひとりの願

☆不屈に生きた土佐の同志☆

南太平洋・望郷の念切々

1911(明治44)年1月4日安芸郡田野村(田野町)で丑古、栄の長男に生まれる。

普光江らと文化運動に取り組み。1935(昭和10)年頃「芸東文学」を発行、小説を書いた。愛称「マー」と呼ばれた。(さるとび日記18より)

「戦旗」安芸支局責任者。

いや具体的取り組みが、今日、ますます重要になっていることを痛感しました。

(熊沢美郎)

1930(昭和5)年4月23日検挙され第一次治安維持法事件で6月4日起訴猶予処分となる。

1935(昭和10)年全農全日派田野支部を結成し、小作争議に勝利する。1936(昭和11)年、人民戦線事件に検挙され懲役2年、執行猶予5年の判決を受ける。

1942(昭和17)年8月29日東部ニューギニアで32才で戦死。普光江茂一宛の検閲で塗りつぶされたはがきには「南太平洋」と「望郷の念切々」の9文字だけだったと。

【資料(高知県における共產主義運動の足跡(さるとび日記)】

公文雅治

(安芸郡田野町出身)



故猪野 睦氏 作品

埋もれてきた群像より

高知の人民戦線前後(二)

この十二月五日一斉検査
前後の高知の状況はどうなっ
ていたか。「大阪朝日新聞高
知版」の一九三六年九月十
六日号は、満州事変五周年
を記念し「三萬の軍隊学生
堂々と市中行進・記念日に
相応しい行事決す」、十九日
号は「高知公園広場に二萬
人の萬歳唱和 莊嚴極まる
慰霊祭と記念式」きのふ満
州事変記念日」の見出しを
かけ、「煙幕市街を掩ふ中
村の記念模擬演習」、そして

宿毛でも十八日在郷軍人、
青年学校生徒五百余名を総
動員して、午前六時から満
州事変をしのぶ対抗演習を
実施、「松田川で白兵戦を
演じ」たなどがでてる。
そして満州事変五周年を
記念して大々的におこなわ
れたのが十一月九日から二
十二日までの第十一師団一
万人の高知県全土での秋季
演習だった。十二日号以下
の見出しには「今ぞ見ゆ四
州の精鋭」「軍靴土佐路に響

く」「大川を挟んだ
火花散る決戦」「壮
烈 斗賀野峠に白
兵戦を展開 山野
を彩る十字砲火」

「四国の精鋭部隊
一香長平野に会戦
八日市飛行隊も
勇躍参加」「第十一
師団演習 暁夢を
破る砲声 空陸相

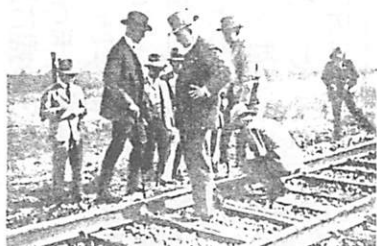


満州事件満5年の記念行事を報じた
高知新聞(1936年9月18日)

破る砲声 空陸相

応じて近代戦
を展開」「主力
の衝突 夜を徹
しての戦闘続く」
などがおどった。
大規模な実戦
演習だった。

そして十一月
二十二日号は
「防空総合演習」
を報じた。二十一日から二
十二日朝にかけて高知市を
中心に燈火管制区域をおき、
一市四十町村を総動員し、
「陸軍機の示威飛行を敢行」、
「師団演習の砲声、銃声と相
俟つて」「血沸き肉躍るの軍
国風景を展開したというふ
うに県内全土が準戦時体制
にのめりこまされていって
いた。



日本、イタリアにた
いする反戦統一戦線
のよびかけだった。
毛利孟夫はフランス
の文献を独学で訳
し、横村浩や池本良
三郎らと話しあって
きていた。翌三六年
二月、岡野・田中名
の「日本共産主義者
への手紙」がだされ、アメリ
カでパンフレットにされ、日
本へ五月に送られてきた。
高知で毛利孟夫が「手紙」
をみたのは八月すぎだった。
田村乙彦も高知の消費組合
をつうじてうけとった。高知
への部数はすくなくったので
回しよみをした。十二月五
日の一斉検査のとき、これ
が押収され物的証拠とされ
た。コミンテルンの指示によ
る共産主義運動とされた。
高知での統一戦線運動は
「手紙」以前からさぐられ
「無産戦線統一」がすすん
でいた。

全農高知県聯大会のすこ
し前に、「手紙」がきて、当然
みることになる。同一方向
であり竹村悌三郎、毛利孟

夫、田村乙彦の間で話しあ
いがおこなわれ、田村乙彦
作成の第五回大会議案は暗
黙の共通の理解の上にたっ
て作られ、人民戦線統一へ
むけていく方針がつまりぬか
れた。大会案では「高知県全
無産戦線統一を要望する」
実行方法として「一社会大
衆党との協力を積極的に強
化する。二全農、社大党、勤
労同志会、全評、土佐農民
組合の大同を要望する」を
あげた。

議案は承認されたが、それ
を支える状況はなくなつて
いた。県内では第十一師団
の大演習、宿毛湾を中心と
する大々的な大聯合艦隊演
習があり、戦線統一のひとつ
にあげた土佐農民組合は、
翌年四月、組合長大石大の
代議士当選とともに東方会
下部団体としてファッシュ化
していった。十二月五日の人
民戦線事件一斉検査は全農
県聯を直撃し、一切の高知
県における運動を潰滅させ
た。中国侵略戦争が本格化
するのは翌年七月からだっ
た。

高知市民劇場9月例会

しみな「獅子の見た夢」

筆者は、「高知市民劇場」という演劇鑑賞会に入っている。この会員になると、2か月に一度、東京から迎えた劇団の作品を高知にいて堪能できる。その演目は、会員同士が話し合って決めており、反戦等の社会派作品も多い。この高知市民劇場の9月例会（9/12夜、9/13昼の2



劇団東演「獅子の見た夢」の公演より

公演会場かるぽーとに戦時下の演劇人をテーマにした作品がやってくる。それが、劇団東演「獅子の見た夢」だ。この作品は、堀川恵子氏による『戦禍に生きた演劇人たち』演出家・八田元夫と「桜隊」の悲劇』を原作としている。ここでは、その内容の一部を前後編で紹介したい。

原作のサブタイトルにある「八田元夫」とは、戦前・戦後に活躍した演出家だ。大正デモクラシーに花開いた「新劇（歌舞伎等の伝統芸能とは一線を画す近代的な演劇。民衆の思想性が反映されている作品も多かった）」が、戦前の暗黒政治に蹂躪される中、様々な葛藤とともに生きた人物である。原作は、1976年に没した八田の遺品を紐解く所から始まる。そこには、時代に翻弄され

た演劇人たちの苦悩と今に伝えるべき歴史の教訓が残されていた。

近代演劇の発祥は、1924年、東京に建てられた「築地小劇場」と言われている。ここは、1945年の空襲で焼けるまで名作や名優を数多く生み出し、新劇の灯をともし続けた場所だ。しかし、同劇場開設の翌年に制定された治安維持法は、演劇界にも抑圧の手を伸ばすようになる。台本は警察によって検閲され、政府に都合の悪い内容は、削除だけでなく上演そのものが禁止されることもあった。1928年には共産党関係者1600人が一斉検挙される「三・一五事件」も起こり、こうした中で演劇人たちの間にも対立や分裂が起こっていく。

さらに、1932年の「五・

一五事件」以降、軍部が力を持つと、劇団員たちは思想犯として本格的な弾圧を受けることとなった。当局は、日本プロレタリア文化連盟（コップ）の活動は治安維持法違反であるとし、同連盟のもとで演劇部門を担当する組織の壊滅を図った。演劇人たちの逮捕は日常的に

したが、それは虚偽であった。

演劇人にとって「冬の時代」となったこの時世、八田もまた、逮捕され勾留を受けている。1932年、八田が権力の網をくぐって設立した「東京少年劇団」の公演が、翌年1月に行われた時だ。その演目「キヤラメル芸術」は、負傷兵士を労ろうとの名目で製菓会社が学童にキヤラメルを売り付け、子どもたちの活躍でその企みが暴露されるという内容である。これが不適切として八田は公演初日に捕縛され、真冬の中、築地署に1ヶ月ほど留置された。そして、2月18日に釈放された八田と入れ替わるようにして連行されてきた人物こそ、あの小林多喜二である。多喜二は、その2日後、過酷な拷問で命を奪われた。



なり、舞台に立つ最中に連行された事例もあったという。治安維持法成立当時、司法大臣は「この法律は共産主義者の取り締まりを目的としたものであり、無辜の民を標的にするものではない」と説明

（森本琢磨）

○女性部の広場

お祭りのようだった選挙

4年に一度の統一地方選挙。県議選と市議選を合わせると、約一ヶ月間の事務所当番をお手伝いしました。看板を立て、候補者カーの飾り付け、運行表を作って運転手・アナウンサー・手振りなど要員の手配をしながら、事務所の模様替えをして食事のできる空間にします。

昼食と夕食を、後援会の皆さんにお願いして、炊き出しをしてもらうことにしました。それぞれお得意の献立で、ちらしずし・炊き込み・鯛ソーメン・酢鶏・

おでん・牛丼・マーボー丼・中華丼・カレーライスと、毎日楽しい食事に加え、赤飯・かつおのたたき・五目ずし・母大福・パウンドケーキ・レモンケーキ・苺ゼリー・コーヒゼリーなど、差し入れもたくさんで「選挙太り」が心配になるほどでした。

事務所は食事をするだけの場所ではありません。電話かけ・ビラ折り・後援会ニュースの準備など。作業もあります。いっばいに広げて作業をしていても、時間がくれば大あわてで



片付けて、殺風景な事務所のスチール机での食事に少しでも彩りをと、コピー用紙に切り絵で作った花束を貼った「ランチョンマット」に毎日キャッチフレー

安岡さんが事務所当番をした岡田ズを書き込んで応援する心を伝えま

した。

終わってみればあつという間のような気がします。多勢の仲間と一緒に、毎日お祭りのようでした。

5月幹事会報告

収穫だったメーデーでの署名集め

☆署名

(個人)566筆

(団体)4筆

☆国会請願

請願者を決定しましたが本人都合で参加できず本部に一任とします。

☆県本部総会

日時：7月15日

14時～16時

場所：草の家

☆四国ブロック集会

(高知担当)

日時：9月9日

9月10日

場所：高知城ホール

詳細はブロック打ち合わせで決定

※メーデーで署名集める

今年の署名数が少ないことから幹事会は危機感をも

今は肩の荷が降りてホッとしたような、少し淋しいような気持ちです。4年後にまたあの忙しい日が来るのかな。(安岡静子)

ちメーデーで署名を集めることを決めました。コロナ以前は連合メーデー、県労連メーデーに出かけ

少なくない筆数を取ってきた経験があります。期待を持って出かけた連合メーデーは会場に着くまでに小雨がパラパラと落ち、開始から十数分後に粒の大きい雨が降り出し途中で断念しました。1日は県労連のメーデー、天気は回復し集まった参加者に署名を訴えました。コロナ禍で会員の5筆、10筆

6月幹事会

日時：6月15日(木)

10時～

場所：平和資料館

・草の家

メーデーで署名集め



とお願ひしてきましましたが集会で集めることができたのは収穫でした。

引き続き会員の皆様に協力戴き署名の目標達成を目指したいと考えています。今年の国会請願要請行動は5月16日です。県本部は集まった署名を中央本部に一任して預けます。会員の皆様ご協力有難うございました。

○編集後記

統一地方選後半は少し残念な結果となりました▼「らんまん」効果が賑わったGW。反動でコロナが…(M)